

音楽科学習指導案

日時 平成22年5月21日（金） 1校時
対象 2年4組（男子20名 女子20名 計40名）
指導者 教諭 福原美保

1 題材 「郷土の民謡に親しもう」

2 指導目標

- (1) 郷土の民謡に興味関心を持たせる。
- (2) 歌詞の内容を味わいながら聴き取らせる。
- (3) 民謡の特徴を感得し、曲にふさわしい発声で歌わせる。
- (4) 地元の唄者による演奏の鑑賞を通して、楽曲の雰囲気や音楽の背景を理解して聴き取らせる。

3 題材の評価規準

- (1) 民謡の発声の特徴や響きに興味・関心をもち、意欲的に表現しようとしている。
- (2) 歌詞の旋律から民謡独特の曲想を感じ取り、工夫して表現しようとしている。
- (3) 発声の特徴を理解して表現しようとしている。
- (4) 地元の唄者による演奏の鑑賞を通して、音楽の多様性を理解することができる。

4 教材

「いきゅんにや加那」 日本民謡 鹿児島県

5 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は中学校学習指導要領、第2学年の表現の内容（1）イ曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと、すなわちその音楽にふさわしい発声や言葉の特性を大切にしながら歌唱の表現をすることである。また鑑賞の内容（1）ウ我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること、すなわち音楽の多様性の理解、単に多くの音楽があることを知識として得るだけでなく、人々の暮らしとともに音楽文化があり、そのことによって様々な特徴をもつ音楽が存在していることを理解することである。民謡にはその土地に生きる人々の生活や思いが色濃く映し出されている。郷土の民謡を学習することで、自分たちが住んでいる土地の音楽文化について知り、音楽にはいろんな演奏の仕方があるという、表現の多様性を理解することができると考え、本題材を設定した。

(2) 教材について

いきゅんにや加那は、北部奄美の代表的な島唄の一つである。作詞、作曲共に不詳。単純なメロディーであるため三線の稽古で最初にくることが多く、また奄美出身の歌手によく歌われる曲である。男女の別れを歌ったという説と生者と死者の別れを歌ったという説がある。旋律も歌いやすく、島唄の導入にしやすい教材である。今回は奄美出身の「唄者」に授業の中で実演をしていただく。伝

承音楽である「島唄」の表現方法を学び、生活の中に息づいている音楽に触れることができる教材である。

(3) 生徒の実態

本校は朝と帰りに毎日学級合唱に取り組んでいるため、新しい曲にも意欲的に取り組むことができる。

今回の学習に取り組むに当たって、生徒たちの音楽に対する実態の一面を知るために、次のようなアンケートを実施した。

【4月22日 男子20名 女子18名 計38名実施（人数は左が男子，右が女子）】

- | | |
|-----|--|
| I | あなたは表現活動（演奏する）と鑑賞活動（演奏を聴く）ではどちらが好きですか。 |
| | 表現活動（7名，12名） 鑑賞活動（13名，6名） |
| II | 鑑賞活動で学んだことを表現活動で生かそうとしていますか。 |
| | 生かしている（5名，13名） 生かしていない（15名，5名） |
| III | 日本の民謡に興味関心がありますか。 |
| | ある（3名，4名） あまりない（15名，12名） まったくない（2名，2名） |

以上のアンケート結果から、I・IIの質問項目に対しては男女で大きく結果が違った。男子は鑑賞活動を、女子は表現活動を好む傾向があることがわかる。質問IIIの民謡については、興味関心はあまりないという回答が半数以上をしめていて、男女共に興味関心が低いことがわかる。また郷土の民謡についても知っている曲が少なく、島唄に限っては一人も知らなかった。原因として、日常生活で郷土の音楽を聴く機会が減っていることが考えられる。

そこで今回の学習を通して、郷土の音楽文化にふれさせると共に、民謡の特徴的な演奏法を知ることによって様々な演奏方法があることを理解させ、多様な音楽文化があることを体感させたい。また、鑑賞活動と表現活動を組み合わせて授業を行うことで、生徒の曲に対する理解も深まり、表現もさらに広がっていくと考えられる。

(4) 指導にあたって

生徒の実態を踏まえ、本題材を扱うにあたり、次のようなことに留意して学習を進めていきたい。

ア 表現活動と鑑賞活動を関連させていくことにより、曲想や歌詞の内容により関心をもち、多様な音楽活動の楽しさを体験することを通して、意欲的に歌唱活動に取り組む姿勢を育てたい。

イ 民謡独特の曲想を感じ取らせ、表現を工夫させたい。

ウ 民謡の発声の特徴やリズムを理解させ表現ができるようにさせたい。

エ 唄者の演奏の鑑賞を通して、音楽表現の多様性を理解させたい。

6 指導計画（全3時間）

時	主な学習活動	教材	単位時間における評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の能力	表現の技能	鑑賞の能力
1	1 日本各地の民謡について知る。 2 民謡の種類や音階について知る。 3 郷土の民謡「いきゆんにゃ加那」の合唱の音取りをする。	いきゆんにゃ	<ul style="list-style-type: none"> 民謡の特徴に関心を持ち、意欲的に聴こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 民謡の特徴を感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「いきゆんにゃ加那」の自分のパートの音を正しく歌うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の流れや雰囲気、曲想を味わいながら聴き取ることができる。
2 本時	1 唄者の演奏の鑑賞を通して、島唄の発声の特徴や言葉による表現方法を知る。 2 島唄の特徴や、独特な発声を生かしながら表現する。	加那	<ul style="list-style-type: none"> 曲の背景、特徴に興味を持ち、進んで楽曲の構成を理解しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞や旋律から島唄独特の曲想を感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 島唄の特徴をとらえ、曲にふさわしい歌唱表現をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の民謡のよさを感じ取り、音楽の多様性を理解することができる。
3	1 民謡の特徴を生かしながら、自分たちの演奏表現を工夫して表現する。 2 表現方法を工夫しながら、表情豊かに歌うことができる。		<ul style="list-style-type: none"> 表情豊かな歌唱表現をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲想や歌詞の内容を感じ取りながら、楽曲にふさわしい表現を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 民謡の歌詞や発声の特徴を生かしながら、表現したいイメージや曲想をもちながら合唱をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲構成を理解し、楽曲の豊かな表現や曲想の変化を理解しながら聴き取ることができる。

7 本時の実際（2/3）

(1) 目標

- ア 郷土の民謡（島唄）への興味・関心を高めさせる。
- イ 歌詞や旋律から島唄独特の曲想を感じ取らせる。
- ウ 島唄の特徴をとらえ、曲にふさわしい歌唱表現をさせる。
- エ 郷土の民謡のよさを感じ取り、音楽の多様性を感じ取らせる。

(2) 評価規準

- ア 積極的に島唄の特徴をつかもうとしている。
- イ 島唄の歌い方の特徴を知覚・感受している。
- ウ 歌詞の内容を味わいながら聴いたり、島唄の特徴を生かした歌唱表現をすることができる。
- エ 島唄の特徴から音楽の多様性を感じ取り、よさや美しさを味わいながら鑑賞することができる。

(3) 展開

時間	主な学習活動	形態	指導上の留意点(◆は評価の観点)
3分	1 発声練習をし、既習曲を歌う。	一斉	○ 明るい雰囲気をつくりながら伸び伸びと歌唱させる。
2分	2 本時の目標について知る。 島唄の発声の特徴やよさを感じ取って、演奏してみよう。	一斉	○ 本時の目標と授業の流れを理解させる。 ・ 前時までの学習を振り返らせる。 ・ 本時の目標を考えさせ、意見を引き出させる。 ・ 本時は、地元の唄者の方の演奏を聴き、演奏の特徴、歌い方をつかみながら表現を工夫していくことを理解させる。
16分	3 奄美の唄者による「いきゅんにゃ加那」の演奏を鑑賞する。 4 ワークシートに歌い方の特徴を記録しながら、唄者による演奏を鑑賞する。	一斉 個人	○ 島唄の雰囲気をじっくりと味わわせる。 ○ ワークシートに、歌い方の特徴を書き込ませる。 ◆ 評価 ア・エ
17分	5 島唄の特徴的な部分を練習する。 6 5で練習した部分を班ごとに練習する。	一斉 グループ	○ 範唱を聴いてそれをまねる活動を通して、島唄独特の発声を感じさせる。 ◆ 評価 イ・ウ ○ 島唄の特徴を生かしながら練習させる
5分	7 班ごとの練習で努力した点、工夫した点を出し合う。	個人	○ とらえた島唄の特徴をワークシートに記入させる。 ◆ 評価 イ
7分	8 三線に合わせて全員で演奏する。 9 本時のまとめをし、次時の活動の確認をする。	一斉 個人	○ 島唄の特徴や、独特な発声を生かしながら、伸び伸びと表現させる。 ◆ 評価 イ・ウ ○ ワークシートに本時の活動のまとめとして、感想を書かせる。